

学級活動（２）指導案

横浜市立南吉田小学校

授業者 高橋修司

1 日時 平成 25 年 11 月 20 日（水）第 5 校時

2 学年・組・在籍数 第 5 学年 3 組 在籍者数 33 名

3 活動名 「みんなの成長 ～『ぐーぱ』を使って伝える力を高めよう～」
題材名 「『ぐーぱ』から、よりよい伝え方を考えよう（オ 学校図書館の利用）」

4 活動について

児童の実態

児童がコミュニケーションをとる手段は時と場合により様々である。学校生活の中では直接会話をすることが多いが、時と場面によって声の大きさや話し方などを適切に使えている子は多いとは言えない。その他手紙や新聞といった書くことなどによってコミュニケーションを取ることもある。自分の携帯電話（以下スマートフォンを含む）を持っているという子はクラスの 7 割を占め、放課後には、電話やメール、LINE などの手段もある。

やりとりを見ていると、男女の仲は良く、外で一緒に遊び、少人数の学習の教え合いなども比較的スムーズに行うことができる。しかし、個々で見ると固定された人間関係に納まってしまい、その範囲を超えて困っている子を助けたり教えたりできる子は少ない。表面上の大きなトラブルはないが、上下関係の中で言いたいことが言えない子が我慢をしている状況でもある。携帯電話に関わるころでは、連絡を取ったり会話を楽しんだりしている一方で、「夜中に連絡が来る」「ライン上で悪口を言われる」「連絡先を勝手に（他人に）教えられた」などの問題も起きている。

10 月の下旬より、新しいコミュニケーションの手段として「ぐーぱ」を使い始めた。クラスの係活動の連絡や相談に使い、学校の他家庭でも使えるようにした。掲示板を使って友達の意見を聞いたり、アンケートのようにしたりして使っている様子が見られた。また、クイズを出したり質問をしたりコミュニケーションを楽しんだりする様子が見られた。一方で身勝手な書き込みや、書き込み者の分からない書き込みもあり、それについては多くの子が不満を漏らしている。

育てたい力と教師の意図

○自尊・自律規範意識

・目的に応じた情報機器の利用の仕方を知り、自分に合った情報との付き合い方を考え、実践しようとする。

児童たちが相手に何かを伝えたいと思う時に、会話や手紙、電話など手段が様々だが、何を選択しどのように使うかは本人に任される。数ある手段の中から、目的に応じて適切に選び、活用していくことが大切である。そのような、時と場に応じて適切な手段と方法を選び実践していこうとする力を育てていきたい。

小学校高学年の時期は様々な教科で調べ学習を行い、インターネットを活用する機会が増え、携帯電話保有率が上がる。つまりこの時期に、携帯電話やインターネットなど、コミュニケーションの手段を新たに獲得していくことになる。

すでに実生活で携帯電話やインターネットを使っている子も多いが、そうでない子もいる。同じ土俵に乗ってもらいたいという思いから、学校で「ぐーぱ」の体験をした。「ぐーぱ」を使って行けば自ずと良さと課題が出てくる。出てきた良さと課題を共有し、既存の手段と合わせながら、よりよい使い方を考えさせていきたい。そしてどんな手段を取るとしても、その先には相手がいることを感じて、大切なことはその相手を思いやることであると感じてほしい。

活動のねらい

新しい伝える手段として「ぐーぱ」を体験し、良さや課題について話し合っていく中で、よりよい伝え方を考え、生活に活用できるようにする。

本活動における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
情報機器などを使った伝え方を身につけ、適切に使おうとしている。	状況や相手、目的に応じた伝え方について考え判断し、実践している。	情報機器を扱うときのルールや、円滑なコミュニケーションの心構えがわかる。

具体的な手立て

①事前の活動[問題の共通化]

係活動をもっと楽しくするために、情報交換やお知らせの方法を既存のもの（帰りの会の連絡、給食中の話合い、休み時間、授業等）に加えて、新たに小学生専用SNS「ぐーぱ」を使えるようにする。「ぐーぱ」を使って、インターネット上でやりとりする体験を行う。ここでは主に掲示板を使ったやりとりができる。しばらく自由に使う期間を設けておき、学校や家庭でも使えるようにする。

体験して実感した便利な点や困った点を整理し、「ぐーぱ」を使ったときに起きた問題を共通化する。「ぐーぱ」（匿名性がある・時と場所を選ばない・全体に対して発信できる等）や既存の方法（会話・全体連絡・ポスター・電話等）について特徴を整理する。

②話合い[自己決定]

実際に「ぐーぱ」の中にあったいくつかの書き込み例から、本当にそれが最適の伝え方（手段や言葉の内容、言葉づかいなど）だったのかどうかを考える。対象は誰なのか、伝えたいことは何なのか、を確認しながら書き込み例ごとによりよい伝え方を考える。

そうした思考を経て、伝え方は時と場合により違ってくることを知る。しかし、違った伝え方にも共通していること（適した手段を選んだり、モラルを守ったり、相手意識をもったりすることなど）があり、それが大切であると理解する。

よりよい伝え方について話し合った末に、これからの自分のめあてを決める。

③事後の活動[実践][振り返り]

決定した自分のめあてを、チェックシートをもとに実践し、振り返りを行う。また、実践して高まった伝える力を「ぐーぱ」を通して、他校の小学生と交流するなど活用する。

5 研究主題との関連性

研究主題

I C T機器を活用した、子どものわかりやすい授業を目指して

<情報機器を使用したコミュニケーションを経験する>

パソコンを使って「ぐーぱ」を利用したコミュニケーションの経験を行う。直接顔を合わせずにやりとりをする感覚を味わわせたい。

<実際の画面を見ながら話し合う>

「ぐーぱ」のやりとりを映したパソコンの実際の画面を見ながら話し合いを行う。いくつかの事例を話し合う際に、より身近で現実的な問題として考えることにつなげる。

6 指導計画

月日	○学習内容・児童の活動の様子	☆指導のポイント
10月25日 (金) 学活 1h	○係活動をより楽しくすることを目標にインターネットの「ぐーぱ」を使って交流をする。 ・5年3組専用だって、すごい。 (この1時間で約30件の投稿に70件ほどのコメントがあった。) (係の連絡に関する書き込みだけでなく、係に関係のないつぶやきも多い。)	☆ローマ字入力 of 練習をする。 ☆「ぐーぱ」を使う上でのルールを伝える。(使用して良いところや書き込みに名前を書くことなど) ☆家でも閲覧と書き込みができることを伝える。
11月1日 (金) 休み時間	○新しく決まったことや交流の続きをする。 (クイズを出すなど交流自体を楽しんでいる。) ・係に関係のないことを書きこんでも大丈夫なのかな。 ・名前を書いている人や、誰かわからない書き込みがあるよ。 ・ふざける人がいて困るな。	☆児童の中から出てきた問題点や良さについて、確認したのち緊急性のないものについてはしばらくそのままにしておく。
11月7日 (木) 休み時間 帰りの会	○交流の続きを行う。 ○「ぐーぱ」を体験して良かったことや気になったことのアンケートを行う。 ・いつでもどこでもできるのが良いね。 ・やりとりが楽しいね。 ・すぐに全員に知らせられるね。 ・名前がわからないよ。 ・ふざける人がいるよ。 ・悪いことが起きると人を信じられなくなる。 ・学校で話せば良いことなのに。	☆アンケート調査を行う前に今までの交流の続きをする時間を設けて、より実感を伴った良さや課題について振り返らせる。

<p>11月13日 (水) 朝の会 中休み</p>	<p>○アンケートを基に「ぐーぱ」を使ってきてどうだったのか話し合う。 (伝え方はどうだったか) ・みんなに知らせることができた。 ・名前を変えて書きこんでいた。 ・ふざけてしまった。 ・もっとよい言葉かけができた。 ・名前を変えて書きこんでいた。 (係活動は楽しくなったか) ・係の連絡に役立った。 ・係活動に関係のないことがあった。 ○「ぐーぱ」で伝える力が高まったと言えるか、係活動が楽しくなったと言えるか。 ・そうは言えないのではないか。</p>	<p>☆伝え方、係活動がうまくいったかという点から話し合いを行う。 ☆話し合う際に、受け手はどう感じているかということをお大切にす。 ☆「ぐーぱ」の「匿名性・時と場所を選ばない利便性・全体への伝えやすさ・遠方の人とやりとりできる」など特徴を簡単に確認する。 ☆従来の手段(会話や手紙、電話等)の良さや特徴についても簡単に確認する。 ☆現状の問題を共通化する。</p>
<p>11月20日 (水) 学活 1h <本時></p>	<p>○実際にあった「ぐーぱ」の書き込みから、よりよい伝え方について考え、自分のめあてを決める。 ・相手のことを思いやる言葉にしたい。 ・伝えることや相手によってやりかたを変えたい。 ・分かりやすい言葉で書き込みたい。</p>	<p>☆書き込み画面をパソコンから映し出して具体的な場面として話ができるようにする。 ☆手段が違っていても共通して大切なことを意識させることで、大切なものを見出させる。</p>
<p>11月21日 (木)～ 11月29日 (金) 帰りの会 休み時間</p>	<p>○「5年3組力の見直しブック」(振り返りカード)に自分のめあてが達成されているかを振り返る。 ・意識していれば自然とできてきたよ。 ・続けて行ったら当たり前になってきたな。 ・自分にとっては少し難しかったよ。 ・相手が喜んでくれたよ。</p>	<p>☆毎日、振り返りの時間を設ける。 ☆朝の会や授業中など学校生活のいろいろな場面で、声をかけていき、意識付けできるようにする。</p>
<p>11月29日 (金) 帰りの会</p>	<p>○一週間のふりかえりをする。 ・伝える力が高まってきたね。 ・今までより相手のことを考えられるようになったよ。 ・この力をもっと生かしていきたいね。</p>	<p>☆振り返り、高まった伝える力を生かしてどんなことができるか、考える。</p>
<p>12月 休み時間</p>	<p>○高まった力を生かし、「ぐーぱ」を使って遠方の人とやりとりをする。 ・北海道の子ともやりとりができた。 ・相手が喜んでくれると自分も嬉しい。</p>	<p>☆他教科とも関連させ、学習したことなどを発信していく。</p>

7 本時について

(1) 本時目標

伝えたい内容や相手によって、よりよい伝え方を考えることや相手を思いやることが大切であると理解し、自分のめあてを決めることができる。

(2) 本時展開

児童の活動	☆教師の支援 ◎評価
<p>1、本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「ぐーぱ」の書き込みから、どうすればよりよい伝え方になるかをみんなで考えよう</p> </div> <p>2、「ぐーぱ」の書き込み例を見て、それが最適の手段や方法だったのか話し合う。</p> <p>①モラルに関わる例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を書いて、きちんと知らせるべき。 ・違う名前は使ってはいけないと思う。 ・クイズにするのだったら、少ししたらきちんと名前を言うのが良いと思う。 ・誰が言ったか分からないからと言っても、読む人の気持ちを考えるべきだよ。 <p>②手段などに関わる例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人たちが学校で話せば良いよ。 ・連絡は電話で伝えることではないかな。 ・関係ない人にとっては意味がないね。 <p>③相手意識に関わる例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で話をした方が、気持ちは伝わるのではないかな。 ・手紙やお知らせを掲示板に貼っても気持ちが伝わりそうだよ。 <p>3、よりよい伝え方を考えた結果、その伝え方は場合により違うが、共通していることは何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える内容に心をこめることかな。 ・相手のことを思い浮かべることだよ。 ・思いやりの気持ちが必要だね。 ・責任をもつことが大切だよ。 <p>4、よりよいコミュニケーションとは、どうしていくことなのかを考え、自分のめあてを決め、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手によって方法を考えて伝えたい。 ・相手に気持ちが伝わるような言葉を考えたい。 ・分かりやすい言葉を使いたいな。 	<p>☆伝えたい相手や内容によって、よりよい伝え方(手段や言葉など)が変わってくることを押さえる。</p> <p><u>☆実際に児童たちが書きこんだものの中から①～③に関連したものを選び、パソコンとTVを使って見せる。</u></p> <p>☆何度か書き込みを読み、当時の状況を理解させる。</p> <p>☆書き込みにどういう意図があったのか確かめる。</p> <p>☆近くの人と相談させて、よりよい伝え方を考えさせる</p> <p>◎話し合いの発言や聞く様子<関・意・態></p> <p>☆2で考えた①～③の事例から、相手に伝えようと思った時にあるべき方法は異なってくるが、どんな伝え方だとしても、その先には相手がいいて、その人を思いやることが大切であることを押さえる。</p> <p>☆ペアや班などで自由に話し合わせ、全体で共有する。</p> <p>☆自分のめあてを決め、伝え合うことによって明日から頑張っていこうという意欲をもたせる。</p> <p>◎チェックカードの書き込み<知・理></p>

8 提示する資料について

①モラルに関わる例

MY5-3チーム	
じょじょ	10月28日
じょじょ参上~~~~~ 俺の正体は〜000だし 早く分かれよwww	
はく手の数:0 コメント:8 [編集] [さくじょ] [先生コメント]	

発言の意図として考えられることは「名前を書かずにふざけて遊んでいる・クイズにして楽しむ」といったことである。もしもクイズにするなら、名前はあとで知らせるべきであることや、もっと分かりやすいヒントをだすべき、言葉づかいを変えるべきなどが考えられる。これ以外にも名前を書かなかつたり、偽名を使っていたりするケースがいくつもある。誰が発言したのか分からないことで身勝手な発言が蔓延し、どんなに読み手に不快な思いをさせたことを考えさせたい。

②手段などに関わる例

MY5-3チーム	
5年3組へ	10月25日
みんなってどんなかもくが好きなの?	あみ★
はく手の数:0 コメント:3 [編集] [さくじょ] [先生コメント]	

MY5-3チーム	
ゆうのへ	10月25日
何神様で	英次郎

MY5-3チーム	
だおじえへ	10月25日
もっとガンバリくれや(´ε`)	

発言の意図は「伝えたいことや、聞きたいことがある・やりとりを楽しみたい」ということだろう。よりよい伝え方を考えると、学校で話したり、個人的に話したりすれば良いことを全員が見られる掲示板に書き込むことについて考えさせたい。

③相手意識に関わる例

MY5-3チーム 

管理会社から、 10月27日

皆さん、質問に答えてくれてありがとうございます。「かぶ」の事は、辞めると言うことも頭に
いれておきます。ありがとうございました。 みつきより

はく手の数:0 | コメント:3 | [\[編集\]](#) [\[さくじょ\]](#) [\[先生コメント\]](#)

発言の意図は、「アンケートをした結果をお知らせすると共に、お礼を述べたい」ということであろう。クラス全体に関わる書き込みであり、何も問題がないようにも思われる。他によりよい伝え方があるとするれば、何を使ってどんな言葉で伝えたらいいのかという点を考えさせたい。例えば「ぐーぱ」を見ない人がいるかもしれないから、帰りの会の連絡で伝えることができるのではないか、掲示板に張り出すことはできないかなどが考えられる。

9 「ぐーぱ」について

子どもたちの生活にとってもネット社会はおおきな関わりをもっています。パソコン、携帯電話、スマートフォンといった端末の普及により、子どもたちのコミュニケーションもネットを通じた友人との繋がりが深まりつつあります。同時に、子どもたちがネットトラブルに巻きこまれてしまう危険性も。

このような状況の中で、子どもたちがネット社会で生き抜く力を身に付けていくことがとても重要になってきています。

子どもたちが学校生活の中で安心・安全に SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用できる環境を通じて、ネット社会で適正に活動する力を培う場が、こどもコミュニティサイト“ぐーぱ”です。

（中略）

子どもたちの活動と情報モラル教育の推進に賛同していただける企業から協賛や寄付を募りながら

運営をしています。

学校の先生や子どもたちには無料でご利用いただけます。

「ぐーぱ」のホームページより参照

<<https://www.goo-pa.jp/>>

2013/10/22 アクセス

「ぐーぱ」を利用するためには、運営サイトに利用申請を行い、共通の ID とパスワードを取得する。その際、実在の小学校などの団体であるかどうかを確認される。

子どもたちは共通の ID とパスワードから「ぐーぱ」にアクセスすることができる。つまり団体（以下チームと呼ぶ）としてアクセスすることになる。チーム内のメッセージボードがありそこに書き込みをすることで、コミュニケーションをとることができる。また、他のチームともメッセージの送受信を行うことができる。

そのほか、じゃんけんゲームをしたり、運営サイトからの企画に参加したりするコンテンツが存在する。

自分に克つ心のくせをつくる！ チェック表

よりよい伝え方「自分のめあて」

日付	予想	11/21	11/22	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29	合計
伝える力									

※◎・○・△・×で振り返ろう

感想（どうしてできたのか、できなかったのかも書けるとより Good!）

先生から

